

新国立競技場整備事業における 要求水準書等の履行確認について

令和元年11月6日

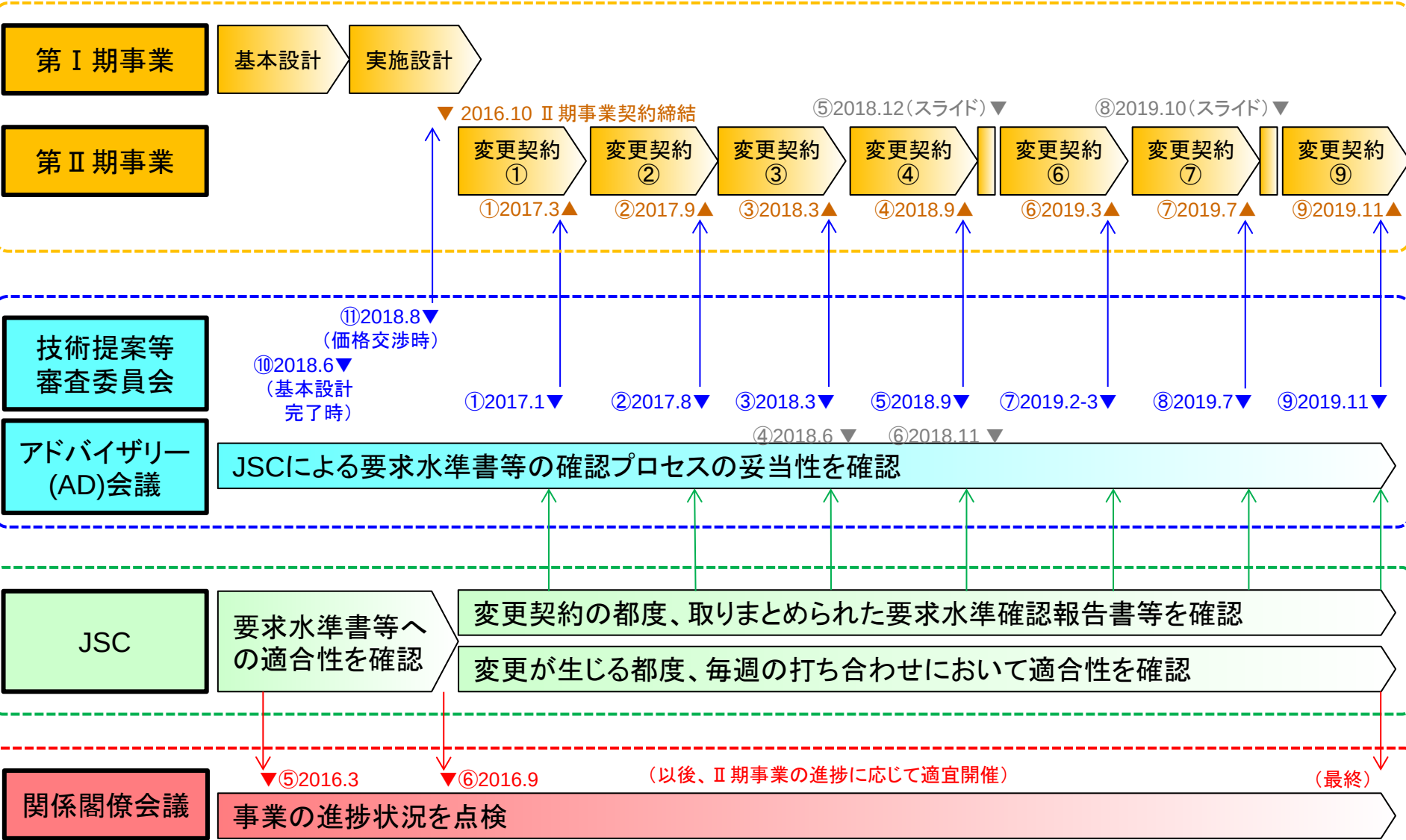
独立行政法人日本スポーツ振興センター

1. 要求水準書等について

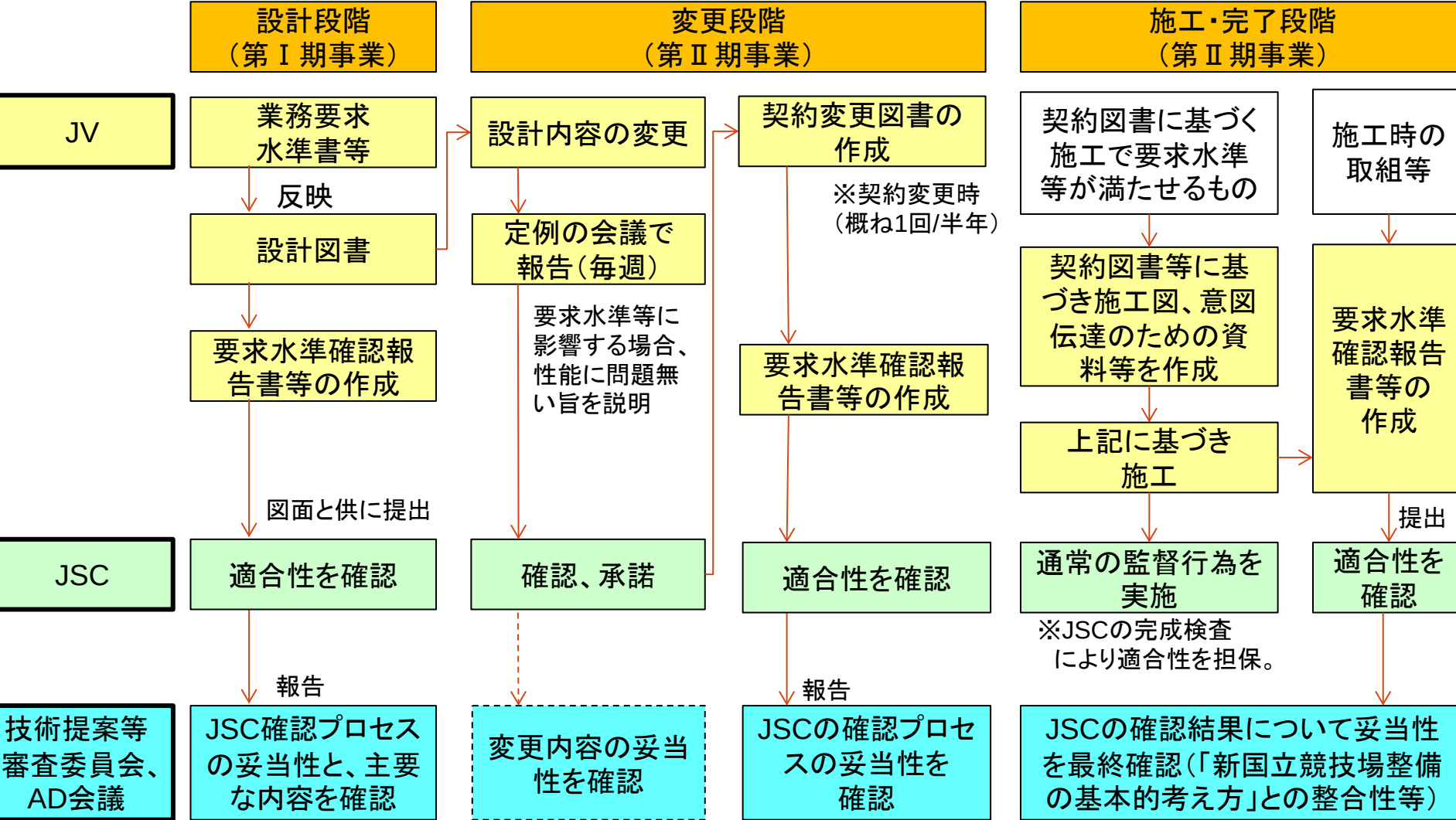
- 本事業における「業務要求水準書」は、「新国立競技場整備事業の適正かつ確実な実施を図ることを目的として、受注者が本事業を実施するにあたり、満たすべき水準及びその他の事項を定めるもの」(業務要求水準書第1章第1節)として、本事業の履行条件とされており、また、「新国立競技場の整備計画」と整合的なものとして位置づけられている。
- 事業者は、要求水準書等(業務要求水準書及び技術提案書等)に従い事業を遂行することが求められ、その履行状況については、事業者及び発注者双方により適宜のタイミングで確認する必要がある。(業務要求水準書第3章第5節)
- 本事業では、「要求水準確認報告書」等※を活用して、設計業務終了時、工事契約締結時(変更契約を含む)に、要求水準書等の履行状況を確認している。

※要求水準確認報告書による業務要求水準書への適合性確認に加えて、技術提案書の履行状況や、適用基準への適合性も確認している。

3. 要求水準書等の履行確認について



3. 要求水準書等の履行確認について
【各段階における確認プロセス】



※事業費や要求水準等に大きな影響を与える可能性がある場合に限る。

3. 要求水準書等の履行確認について

- 要求水準書等の履行状況については、これまでJSCにおいて、要求水準確認報告書等により確認済。
- 求められる水準・仕様等のうち、特に定量的な内容については、基本的にはそれらに基づき契約図(及びこれに基づく施工図等)が作成され、また、当該契約図等に基づき施工されているため、JSCが工事完成検査を実施することによって、要求水準への適合性は担保。
- 業務要求水準書において本事業のコンセプトとして提示されている「新国立競技場整備の基本的考え方」等をふまえた整備状況¹⁾を次頁以降に示す。

第3章. 施設整備

第1節. 新国立競技場整備の基本的考え方

新国立競技場は、明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境の中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下この節において、「東京大会」という。)のメインスタジアムとして建設される。すべてのアスリートが最高の力を発揮し、世界中に感動を与え、東京大会を成功に導く場となり、そのよい遺産として、後世の人々に長く愛され活用される施設となることが望まれる。

そのため、

- 人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム
 - ・世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設を目指す。
 - ・競技者と観客とが一体感のある空間を作り出し、競技者の最高の力を引き出す。
- 周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム
 - ・豊かな緑とともに、スポーツクラスターの中心を作り出す。
 - ・日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する。
- 地域の防災に役立ち、地球全体の環境保存に貢献するスタジアム
 - ・災害時の避難及び救援、地球全体の環境負荷の軽減に貢献する。

を施設整備のコンセプトとして、できる限りコストを抑制し、東京大会開催に間に合うように確実に完成させる。

【業務要求水準書 3-1】

3. 業務要求水準書等の履行確認について

● 「新国立競技場整備の基本的考え方」をふまえた整備状況について

○ 人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム

- ・ 世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設を目指す。
- ・ 競技者と観客とが一体感のある空間を作り出し、競技者の最高の力を引き出す。

【業務要求水準書 3-1】



- ・ ユニバーサルデザインに関連するTokyo2020アクセシビリティ・ガイドラインをはじめとする関係基準、また、各種競技団体の基準への適合性において問題無いことを確認済。
- ・ 14団体で構成されるユニバーサルデザインワークショップを、設計・施工段階を通じて合計21回開催。
- ・ アスリートファーストの観点からは、各種競技団体との間でワークショップを実施。その他、大会組織委員会、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)、メディアとも協議を重ね、関係者の意見を可能な限り施設整備に反映。
- ・ 上記ワークショップは、設計段階から含め、合計70回以上開催。



UDWSにおける車椅子席のモックアップ検証



フィールド、トラック(陸上 I 種、Class1 検定受検済)



ドーピングコントロール室
(JADAによる現地確認済)



ヘッドオン(組織委員会と調整
の上で整備)

3. 業務要求水準書等の履行確認について

● 「新国立競技場整備の基本的考え方」をふまえた整備状況について

○ 周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム

- ・ 豊かな緑とともに、スポーツクラスターの中心を作り出す。
- ・ 日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する。

【業務要求水準書 3-1】



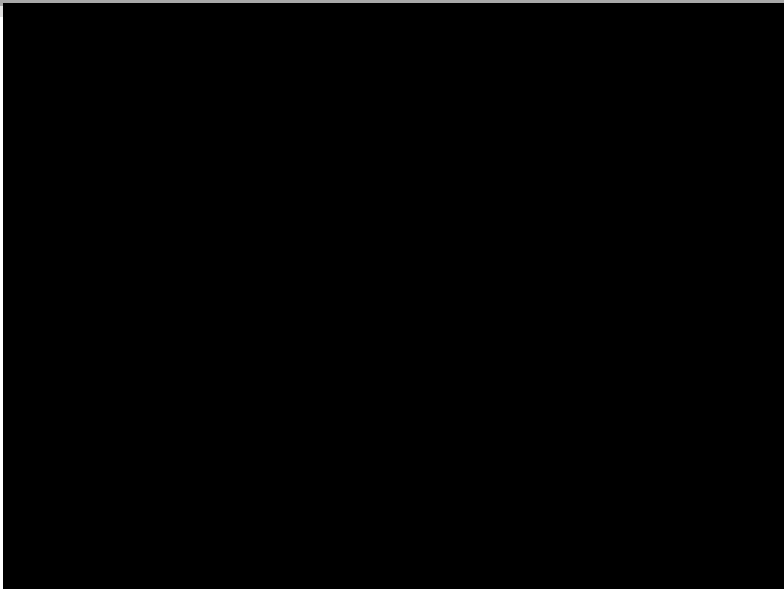
- ・ 明治神宮外苑の豊かな緑と調和する緑化計画とし、スタジアム外周の底に設置した植栽プランターには在来種を中心とした常緑樹を配して一年を通して緑量を確保。
- ・ 外部空間に緑地やオープンスペース、せせらぎを整備し、周辺の緑と一体となる連続的な歩行空間を確保。5階には市民に開かれた「空の杜」を整備。
- ・ 外周の47都道府県の木材を用いた軒庇の縦格子は、木造建築物の庇や軒裏をイメージさせ、また、内部エントランスの天井は、大和張りといった日本の伝統的意匠や、和紙クロスを壁等に用いたデザインを採用し、日本らしさが感じられる空間とした。
- ・ 加えて、行灯照明や蛍線照明により、和を感じさせる照明を導入。



市民が散策できる「空の杜」(5階)



渋谷川の記憶を継承する
循環式の「せせらぎ」(敷地北西～西側)



日本の伝統的な意匠を取り入れた内装



外苑の緑豊かな環境に溶けこむ日本らしい「ゆらぎ」の
灯り(3階「風のテラス」の蛍線照明)

3. 業務要求水準書等の履行状況確認について

● 「新国立競技場整備の基本的考え方」をふまえた整備状況について

○ 地域の防災に役立ち、地球全体の環境保存に貢献するスタジアム

- 〔 ・ 災害時の避難及び救援、地球全体の環境負荷の軽減に貢献する。 〕

【業務要求水準書 3-1】



- ・ 地域防災力の向上を目指し、首都直下地震等の大規模地震に対する構造体の安全性を確保することにより、観客等の安全性を確保。
- ・ また、建築基準法を上回る地震、台風、竜巻などの突風、積雪等の荷重に対しても構造体の余裕度を確保した設計により、防災性の高い施設として整備。
- ・ 屋根トラス・軒庇には国産の森林認証された木材を使用。
- ・ 環境負荷軽減として、スタジアムに自然の風を取り込むための「風の大庇」「風のテラス」を設置。
- ・ 雨水を植栽の灌水やトイレ洗浄水等に活用するため貯留槽（雨水利用設備）を整備。
- ・ 施設の最適運用管理による省エネルギーを目的とした次世代型BEMS※を設置。

※Building Energy Management System



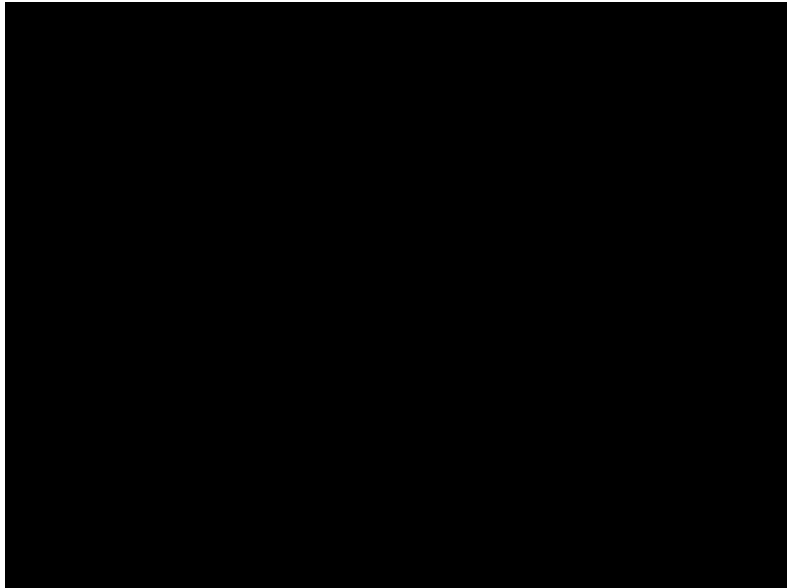
大規模地震に対する構造体の安全性の確保



森林認証材を用いた木と鉄のハイブリッド構造



自然の風をスタジアムに取り込む「風の大庇」
(北側エントランスゲート周辺)



環境負荷の軽減に資する、施設の最適運用管理
システムの導入(防災センター)

3. 業務要求水準書等の履行確認について

● コスト、工期について

1『コスト』

要求を満たす最適なコスト配分により、上限金額を遵守します【提案事業費 建設費:148,999,932千円 設計・監理費:3,985,848千円】

①同心円・同断面によるシンプルで合理的な建築・構造計画を行います。

②工業化工法等で仮設・施工計画を合理化・省力化しコストを縮減します。

2『工期』

大幅に工期を縮減し、2019年11月末の完成を実現します

①フロントローディング型でスケジュールを管理します。

②複数の専門チームで協働する設計体制と手法を採用します。

③同心円・同断面の構工法と工区分割でサイクル施工を行い、効率的に施工します。

④ユニット化による省力化・効率化工法および工区分割で屋根とスタンド仕上げを併行で施工します。【技術提案書 P04 業務の実施方針(1/6)】



- 設計・監理費は、提案事業費である約40億円弱。
- 建設費(提案事業費の約1490億円弱)は、「更なる事業費の縮減」で提案されたデッキ削減を実現し、約3億円を減額(大会後の整備費を加えると減額は概ね1億円)。加えて、トラック舗装の整備区分の見直し等により約3億円が減額。この結果、提案事業費1490億円弱に対し、大会後の整備を加えても1486億円程度となった。
- なお、提案事業費に基づく上限額とは別扱いとして整理されていた賃金・物価等の変動に基づく請負代金額の変更及び消費税率の変更が生じたことから、これらについては適切に対応。
- 以上を含めた最終的な契約金額(建設費)の総額は、約1505億円強(150,556,962,393円)。

3. 業務要求水準書等の履行確認について

● その他 - 各室性能表(導入機能の床面積)

1. 施設構成と導入機能及び規模

本施設は、次の機能により構成され、各機能の基本的な考え方及び面積は、表 2 による。各機能において必要となる主な諸室の面積及び要求水準は、【添付資料 11】「各室性能表」による。
なお、フィールドの面積は、競技等機能の面積に含まれる。

面積の許容範囲

新国立競技場の合計面積は、表 2 に示す合計面積の 95%以上 100%以下とする。
各室面積は【添付資料 11】「各室性能表」に掲げる「面積」に示す所定の面積に対し、±5%以内とする。ただし、設計において、要求水準（面積を除く。）を満たした上で、合理的な理由に基づく提案を行い、J S C と計画案の協議が整った場合は、これを変更することができる。

【業務要求水準書3-2】



- JSCや関係団体との協議により、スタジアムに求められる機能を確保しつつ、必要に応じて技術提案時の平面計画を見直し、必要な面積・性能を確保。
- また、各室性能表において定められた仕様等についても、各競技団体等からの要望や、実際の運用も踏まえた最適な内容となるよう設計を行い、必要に応じて見直し等も行った上で、スタジアムに必要な性能を確保。

業務要求水準書による面積	技術提案書による面積	最終的な面積
194,400㎡	194,010㎡	194,351㎡(99.97%)